

# 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 7年 3月 19日

公表:令和 7年 3月 26日

事業所名 幼児グループにじこ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10		室内をエリアに分け、またテラス、庭を有効に使用し のびのびと過ごせるようにしている。	今後もわかりやすいエリア設定等と整理整頓を心がける。
	2	職員の配置数は適切である	10		十分な職員配置をしている。	職員は基準以上配置されているが、事務時間の確保が難しい状況にあるため、勤務時間内の業務分担等の工夫をしていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	1	遊びの種類によりエリア分けをし、不要なものは片付けて気が散らないようにしている。スケジュールボードやメンバー表等に絵カードや写真を利用している。車椅子のお子さんでもそのまま入れるようスロープが準備されている。手洗い場やトイレには足台や補助便座で対応している。今年度は巡回指導による支援環境のアドバイスにより、スケジュールボードの見直しを行った。	引き続き、随時整理整頓や支援ツールの見直しを行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	2	今年度は使用済みオムツの扱いについて、持ち帰り袋についての周知を行い改善された。毎日消毒液による拭き掃除を行っている。	古くなったマット等を交換していく。また整理整頓や隅々まで行き届いていない部分の掃除を行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	2	いつも全員が参加できるわけではないが、欠席者に対してはファイルもしくは、個別で話す等時間を設けるようにしている。	周知漏れがないよう、確認書類には確認シートにサインをしてもらうようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11		毎年評価を行い改善している。毎年評価表を配布、回収、集計し改善を重ねている。	ミーティングにより職員間で内容を共有し改善意見を吸い上げていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11		毎年評価表を配布、回収、集計しHPIに公表、従業員にも周知している。	今後も毎年評価表を配布、回収、集計しHPIに公表、従業員にも周知していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	4	第三者評価機関による評価は2019年以来受けていないが、自治体による検査により指導を受け、安全計画や他緊急時対応マニュアル等の内容について改善を行った。	今後もガイドライン内容に従い、業務を行っていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	3	シフト制で全員が揃って研修を行うことは難しいが、勤務時間や曜日に縛られない動画による研修や短時間の動画研修も積極的に取り入れた。	在宅での動画研修が都合がいい職員がいる一方で、在宅での時間が取れない職員については、勤務時間内で受けられるよう配慮していく。また、年間で最も忙しい年度後半に研修が集中してしまい、研修後の報告共有等ができなかったため、計画的に行っていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11		児童発達支援管理責任者の交代があったが、面談前には、職員から改めて子どもの課題の確認を行い面談に臨んでいる。保護者ニーズと関係機関での支援内容を聞き取り計画に反映している。	引き続き職員の気付き、保護者との情報を共有し計画を立てていく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10		五領域の発達状況や他機関での様子、要望をもなく聞き取れるようアセスメントツールを使用している。また、モニタリング様式も見直した。	引き続きツールを有効に使用していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11		家庭、関係機関での支援内容を随時確認し、五領域の視点で子どもの現在の様子に合わせ、支援内容を設定している。	引き続きご家庭と情報を共有し、支援内容に反映していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11		支援のポイントは朝の打ち合わせで内容を共有し、振り返りでも情報共有をしている。	さらに、日々成長する子どもの様子に合わせた支援内容の統一ができるよう、ミーティング議事録の確認や連絡票により申し送りをめくなくっていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1	振り返りやミーティングの中で子どもの参加の様子等を確認し次のプログラムに活かしている。基本的な立案は常勤職員が行っているが、毎月内容をミーティングで話し合っている。	引き続きミーティング等で、職員の意見、アイデアを取り入れるようにする。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		利用者の発達に応じ随時内容の検討を行っている。利用者の様子を踏まえながら、ミーティングで意見を出し合い決めている。制作内容を前年度までのデータを参考に季節の制作等は同じにならないようにチームで立案している。砂場が新しくなり安全面での環境を整えた。	引き続きミーティング等で、庭遊び等について職員の意見、アイデアを取り入れるようにする。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10		個別の課題と集団でのコミュニケーション等を組み合わせ作成している。	専門家の意見や他機関の計画内容も参考にしながら、さらに内容の充実を図りたい。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		前日の振り返りや当日の朝に確認している。当日はボード記入や口頭での打ち合わせを行っている。毎日必ず行い、役割・担当が固定化しないようにしている。	引き続き、情報を共有し、確認をしていく。	

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10		毎日振り返りを行い共有している。ヒヤリハットや子どもの様子の共有、気付いたこと、保護者からの相談等話し合う機会がある。振り返りでは全職員が発言できる機会を設けている。当日勤務でない職員も情報共有できるよう連絡票等で申し送りしている。	引き続き、全職員の意見等が反映できるような機会を設ける。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		記録用紙には個別の目標を掲げており、目標に沿った記録ができるようにしている。また、その中でも必ず皆で共有すべき内容を別紙記録用紙に起こし確認できるようにしている。トイレの成功についてタイミング等についても職員間で検討して改善している。	よりわかりやすくポイントを押さえた記述のスキルアップを図る。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10		6ヶ月毎に見直しを行い、必要があれば都度見直しをしている。	引き続き必要に応じ見直しをしていく。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		モニタリングにより担当者が情報共有をしている。	必要に応じ積極的に参画していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	2	必要に応じ会議や電話にて情報交換を行っている。	必要に応じ会議や電話にて情報交換を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	2	医療的ケアが必要な子どもの受け入れはしていないが、重症心身障がい児等については、保護者を通じて情報の共有をしている。当事業所では重度心身障がい児の専門性のあるPTが月1回支援に入っているため、専門的な指導を受けながら対応している。	関係機関と直接情報を共有する機会は難しいため、今後も保護者を介しての情報共有と専門家からの指導により丁寧な療育を行っていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2	保護者を通して情報を得るようにしている。緊急連絡先等は把握している。	今後も保護者を介し最新の情報を得ていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	1	次年度に向けての支援会議を行った。行事の見学、施設見学、電話等等で情報共有を行っている。	どの利用者にとっても移行がスムーズにいこう、保護者の意向を確認しながら、連携をしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9		卒園児に対しては依頼により就学支援シートで学校への情報提供を行っている。	どちらかと言うと事業所からの一方通行の情報提供になっているため、学校公開に参加する等して、積極的に情報を得ていくようにする。保護者OBを招いて就学勉強会等を行い学校の情報を得ていく。引き続き支援シートを丁寧に作成していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	1	年に1回のOTによる技術支援を受け支援に活かしている。	今後も専門家の技術支援を依頼し助言の機会を得ていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	3	機会はなかったが、保育園・幼稚園を併行利用している子も多いため、必要性については保護者の意向に寄り添いたい。個別で幼稚園開放等に参加している。外部からのバリアフリーなコンサートの情報をお知らせする等、園外でのそのような機会について積極的に情報を提供している。また、近隣の子育てサークルの子ども達と当事業所庭にて交流あそびを行った。	必要に応じ検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	1	担当職員が月1回自立支援協議会に参加。年1回の地域子育てイベントに参加している。	引き続き積極的に参加し、現場からの声を届けていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		連絡ノート、個別記録、口頭、面談、電話、おたより、LINE等で共通理解を図っている。	さらに適切な情報のやり取りができるよう、発達支援と保護者支援のスキルアップを図っていく。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	9	1	就学勉強会や保育参観、音楽療法、STIによる勉強会にて支援を行っている。	職員自身が保護者支援のスキルを身につけるよう、また、地域の情報や制度について精通するよう研鑽を積んでいく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10		契約時に丁寧に伝えている。	今後も丁寧にやっていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10		家庭での様子、他機関での様子を確認しながら、保護者の意向を確認し、五領域の視点で計画を立てている。	今後も丁寧にやっていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		6ヶ月に1度の面談の他、必要に応じて話す機会を持っている。	今後も丁寧にやっていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10		年1回の保護者会と就学勉強会、年1回のバザーにより交流の機会を設けている。また、勉強会等でも交流する機会を設けている。	保護者の意見を取り入れながら、適宜開催していく。柔軟に対応していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10		できるだけすぐに対応するようにしている。	チームで話し合い、体制を整えて、適切に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		月1回のおたより、年4回の季刊誌、メール等による一斉のお知らせにより発信している。年4回の季刊誌、にじのこたより、ホームページ、玄関掲示板、ブログ等で発信している。	今後も適宜行っていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10		同意書により丁寧に説明し、承諾を得ている。取り扱いについても同意書に従っている。また、職員に対しても個人情報守秘の宣誓書をとっており、法人には個人情報管理責任者を設置している。	今後も徹底していく。

非常時等の対応	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10		子どもにはジェスチャーや絵カード等、特性に応じた対応をしている。保護者へは丁寧な言葉掛けを心がけ、家庭やご家族の状況に応じたやり取りを行っている。口頭で伝えきれない場合は連絡帳の他、LINE等も活用している。	今後も適宜連絡手段を工夫してお伝えしていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	3	年1回のバザーでは広く地域に掲示をしている。沢山の方々に足を運んでもらった。要望により年2回の開催も検討したい。	適宜検討していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	1	12月の自治体による検査により、安全計画や緊急時対応のマニュアル等の改善ができ、内容を整えることができた。安全計画を保護者に配布・周知することができた。避難訓練、嘔吐処理訓練を行っている。	さらに計画的に様々な緊急時を想定した訓練が行えるとよい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	1	年3回訓練を行った。	以前と比べると避難訓練の回数が減った。また、防犯訓練ができなかった。計画的に避難訓練を行う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10		契約時に説明し、利用者台帳、緊急時対応カードにて把握している。現在にじのこでの服薬はないが、薬の変更があった場合は申し出いただくように周知している。	新学期毎に書類の更新を行うと共に、状況の変化があった場合に申し出るよう保護者に周知する。予防接種の情報も把握している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	現在食物アレルギー対応児は在籍していないが、アルコールやその他アレルギーについては保護者に確認しそれに基づいて対応している。指示書が必要なお子さんは現在いない。	適宜対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10		毎日の振り返りで確認している。担当職員が報告を集計し、職員間で共有し、解決策等を検討している。	今後も引き続き徹底した情報の共有を図る。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		毎年全職員対象に研修を開催している。	今後も研修を行い意識の共有をしていく。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10		身体拘束委員会にてマニュアルを作成し、行う場合には説明し同意を記載している。個別日誌にも当日の対応について記入し保護者に確認を得ている。	引き続き、身体拘束適正化委員会の開催と従業員への周知、研修等を行う。日々の支援において、常に本人目線での適切な支援は何かを話し合っていく。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

#### 改善できた点

- 3 巡回指導による支援環境のアドバイスにより、スケジュールボードの見直しを行った。
- 4 使用済みオムツの扱いについて、持ち帰り袋についての周知を行い改善された。
- 8 安全計画や他緊急時対応マニュアル等の内容について改善を行った。
- 10 児童発達支援管理責任者の交代があったが、面談前には、職員から改めて子どもの課題の確認を行い面談に臨んでいる。保護者ニーズと関係機関での支援内容を聞き取り計画に反映している。
- 13 支援のポイントは朝の打ち合わせで内容を共有し、振り返りでも情報共有をしている。
- 14 振り返りやミーティングの中で子どもの参加の様子等を確認し次のプログラムに活かしている。基本的な立案は常勤職員が行っているが、毎月内容をミーティングで話し合っている。
- 41 安全計画や緊急時対応のマニュアル等の改善ができ、内容を整えることができた。安全計画を保護者に配布・周知することができた。

次年度も今年度の課題や改善点を目標に反映させ事業運営を進めていきます

2, 4, 5, 13, 15, 41, 42の項目について改善して参ります。